

令和7年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果 狛江市の状況について

令和8年3月17日
庁議資料

狛江市教育委員会教育部指導室

実施の概要

1 実施方法・内容

(1) 児童・生徒に対する調査

①体力・運動能力に関する調査（体力テスト）

| 項目 | 凡例 | 小学校 | 中学校 |
|------------|----|-----|-----|
| 1 握力 | 握 | ○ | ○ |
| 2 上体起こし | 上 | ○ | ○ |
| 3 長座体前屈 | 長 | ○ | ○ |
| 4 反復横跳び | 反 | ○ | ○ |
| 5 持久走 | 持 | / | 選択 |
| 20mシャトルラン | シ | | |
| 6 50m走 | 50 | ○ | ○ |
| 7 立ち幅跳び | 立 | ○ | ○ |
| 8 ソフトボール投げ | 投 | / | ○ |
| ハンドボール投げ | 投 | | |

②生活・運動習慣等の実態に関する調査（質問調査）

(2) 学校に対する調査

（児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る取組に関する質問調査）

2 実施期間 5・6月

3 対象 小学校全児童 全6校 3,931名
中学校全生徒 全4校 1,424名

考察

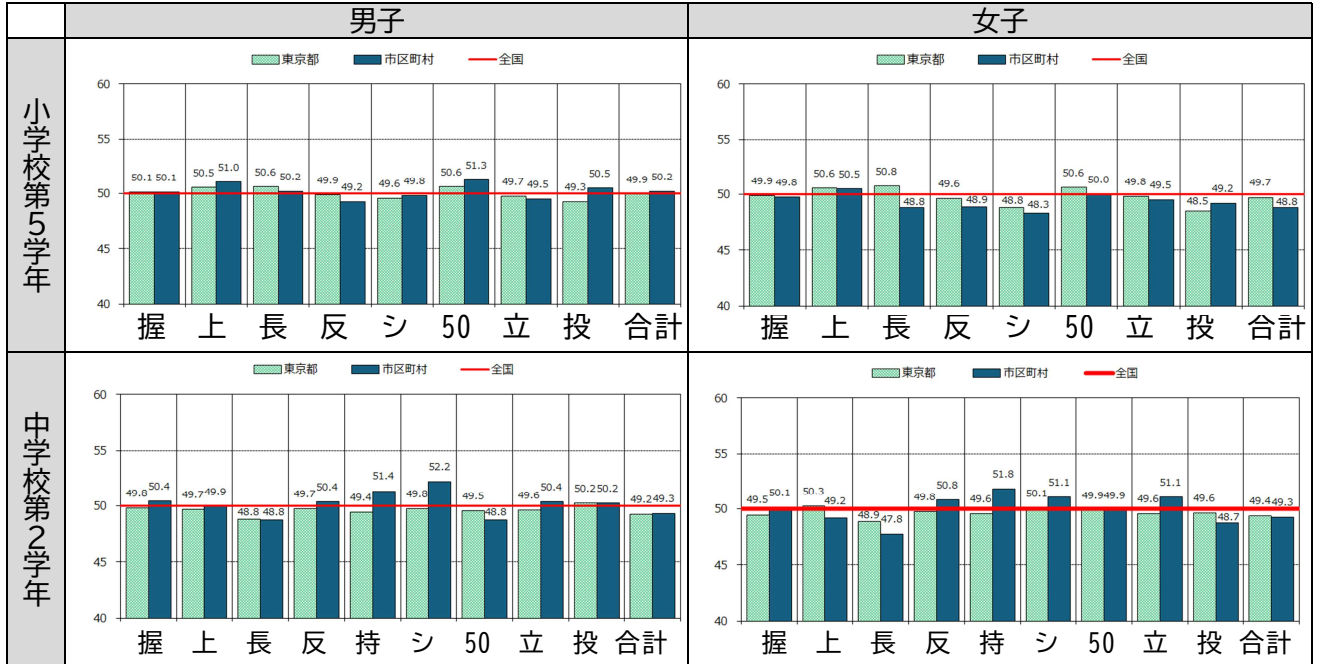
全国平均に比べ、小学校男子は「50m走」、中学校男子は「20mシャトルラン」が高く、中学校女子は「持久走」「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」等が全国平均を上回っている。一方で、小学校女子は全国平均に満たない種目が多く、「20mシャトルラン(持久力)」「長座体前屈(柔軟性)」に特に課題が見られる。

運動やスポーツを行う頻度・時間においては、小学生女子では行う時間が伸びているものの、ほとんど運動をしない児童・生徒が一定層おり、運動の二極化の一端が伺える。

課題解決に向けて、体育・保健体育科の授業改善を推進するとともに、学校の教育活動をととして日常的な体育的活動の充実が求められる。児童・生徒が様々な運動を経験することで楽しさや喜びを味わうとともに、進んで運動に取り組めるようにすることが重要である。

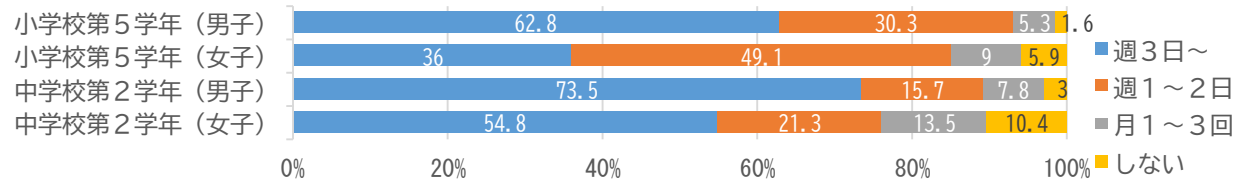
調査結果

1 体力・運動能力 ※全国平均に対する相対的な位置を表すTスコアを活用したグラフ ※図の凡例は左表のとおり

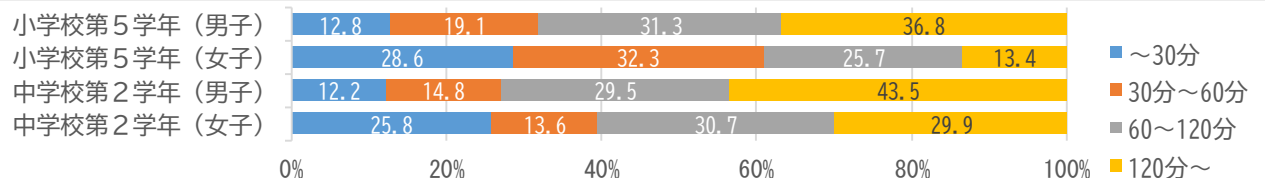


2 生活・運動習慣等の実態

(1) 運動やスポーツを行う頻度（※学校の授業を除く）



(2) 運動やスポーツを行う時間（※学校の授業を除く）



【参考：1日の運動時間（全国平均）】小5男子 83.8分、小5女子 42.6分、中2男子 86.1分、中2女子 89.5分